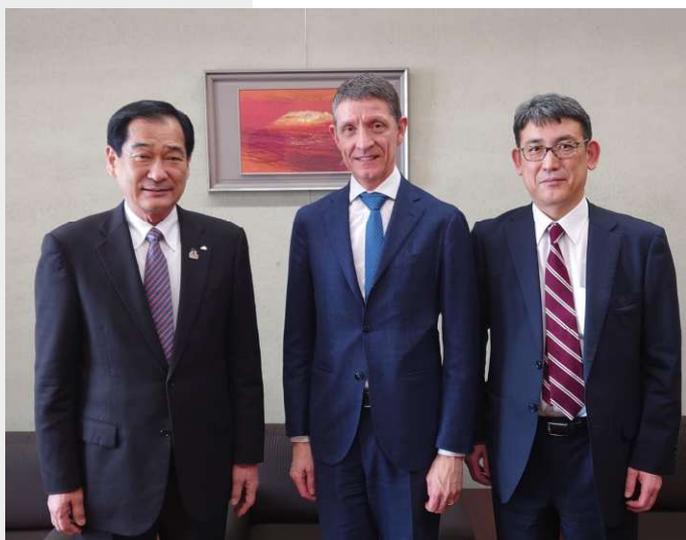




## 「IGC プティ専務 山野理事長を訪問」



左から IDACA理事長 山野徹（JA全中会長）、  
国際穀物理事会 専務 アーノ・プティ氏、  
IDACA 常務理事 小林寛史

2022年1月にIDACAと連携協定を結んだ国際穀物理事会（IGC）のアーノ・プティ専務が、2024年3月にIDACAの山野徹理事長（JA全中会長）を訪問しました。その内容を以下にお伝えします。

山野理事長はプティ専務の来日を心より歓迎しますとした上で「IDACAは1963年以来、アジアやアフリカの農協関係者の能力構築を支援してきた。その結果、広範囲なネットワークが構築され、そのネットワークがIGCを通じて国際社会で役立っていることは大変嬉しい」と述べるとともに、世界的な新型コロナウイルス感染とロシアのウクライナ侵攻による世界の穀物市場の不安定化、そしてインドのコメ輸出禁止による価格上昇をもたらしたことを危惧しているとしました。

プティ専務は、IGCとIDACAとの連携に感謝しつつ、世界の穀物市場価格の不安定さと需給の不均衡への対応の重要性を強調。これを改善していくための農協の役割は大きく、需給の不均衡をいかに改善していくかが大きな課題だと語りました。また、今後のIGCの取り組みに関連して、生産量と消費量を増加させる方策、種子の重要性と農業生産・食料安全保障の関連性、地球温暖化や環境破壊の進行とそれに伴う作物生産の変動への対応、穀物の生産・流通・消費におけるデジタル化などを例示しました。

プティ専務はIDACAとの連携の継続を希望し、山野理事長も同様の意見を示し会談が終了しました。

### 「目次」

IGC プティ専務 山野理事長を訪問.....	1
事業報告：国連主催女性の役割向上に関するシンポジウムにオンライン出席.....	2
IGCとIDACAの共同プロジェクト ロンドンでWSを開催.....	3
全国農業会議所が外国人材受入制度に関する説明・相談会を実施 インド、インドネシア、フィリピンで開催.....	4
韓国農協中央会と国際協力について意見交換 .....	5
研修報告：2023年度JICAエチオピア国別研修「農産加工団地エリアにおける バリューチェーン構築研修」 .....	6
2023年度ICA農民組織の育成推進を通じた課題対応能力強化研修.....	7
2023年度ICA農民組織の育成推進を通じた持続可能な農業推進と 農家の所得向上研修.....	8
編集後記.....	9

# -事業報告-

## 国連主催女性の役割向上に関するシンポジウムにオンライン出席

2024年2月8日と3月20日に小林常務理事が、働く女性フォーラム・女性のためのインド協同組合ネットワーク会長のナンディニ・アザド博士（下段写真 中段左）が国連社会開発委員会第62回セッション及び国連婦人の地位委員会第68回セッションのサイドイベントとして開催した以下シンポジウムに、パネリストとしてオンライン出席しました。

国連 会議名	フォーラム名
第62回 国連 社会開発委員会 The United Nation's 62nd Session of the Commission for Social Development	平等のためのエンパワーメント 社会的不平等と家父長的慣習を変革する触媒としての協同組合における女性の重要な役割 Empowering for equality: Women's Crucial Role in Cooperatives as Catalysts for Transforming Social inequity and patriarchal practices
第68回 国連 女性の地位委員会 The United Nation's 68th Session of the Commission on the Status of Women	2030年グローバル・アジェンダに向けた協同組合における若い女性のリーダーシップ構築 Building Leadership of Young Women in Cooperatives Towards 2030 Global Agenda

小林常務は、アザド博士が世界の農村社会における貧困と飢餓の撲滅やジェンダー平等の実現に向けて献身的に努力していることに敬意を表し、具体的な行動に結び付けていく重要性を強調しました。また、国連女性の地位委員会第68回セッションの下で行われたシンポジウム「2030年グローバル・アジェンダに向けた協同組合における若い女性のリーダーシップ構築」で、小林常務は課題への対処方法として以下の5つの点が重要であると述べました。

1. **課題の特定と目標の設定。** 事実と数字に基づき、ベストプラクティスを探ることが重要。現状に不満を言うのではなく、より良い行動計画を考えるべき。
2. **障壁の特定と戦略の構築。** 成功には周到に考え抜かれた戦略が不可欠。イノベーションには大きな投資を要する可能性がある。
3. **資金調達方法の検討。** 良心的な資金調達先を見つけることが重要。
4. **他のパートナーの連携。** 国内外の関係機関や政府との連携が成功に不可欠。
5. **行動計画の作成と広報。** 地元メディアとの連携を通じて地域内で行動計画を前進させる機運を醸成する必要。

最後に、小林常務は60年前にJAグループが設立した開発協力機関であるIDACAを代表して、アジアの農村女性のエンパワーメントを継続することを約束し、アザド博士が呼び掛けた「平等のためのエンパワーメント」を全面的に支援すると述べました。



# -事業報告-

## 国際穀物理事会（IGC）とIDACAの共同プロジェクト ロンドンでワークショップを開催

2024年2月7日に国際穀物理事会（IGC）と当機関の共同プロジェクトで、英国・ロンドンで市場情報に関するワークショップ（WS）が開催されました。本WSは、去年12月に日本政府の拠出のもとタイ・バンコクで行われたWSに続き、2回目の開催です。

共同プロジェクトの内容は大きく2点、①2022年以降の価格高騰や市場の混乱によって影響を受けているアジア・アフリカ・オセアニアの穀物生産者、協同組合、貿易業者、食品加工業者、消費者を対象に、特にメイズ（トウモロコシ）や小麦、大麦、カノーラについて、サプライチェーン参加者が市場情報へどのようにアクセスし、収集しているか等をアンケートで調査すること。②WSでその調査結果に基づき各国で情報共有を行うこと--以上の2点です。ロンドンのWSでは、出席者間で議論を深め、実出席者/オンライン出席者を含めると17か国、総勢30名の参加となりました。

4月にはガーナ国立環境・持続的開発大学（UESD）でもWSを行いました。その様子はまた改めて報告致します。

### <国際穀物理事会（IGC）とは>

ロンドンに本部を置くIGCは、28か国と欧州連合が加盟する機関で、国際穀物貿易に関する協力促進や貿易の円滑化を目的にしています。

活動内容は穀物・油糧種子価格指数（GOI）の算出・公表、穀物市場に関するレポートの作成、穀物カンファレンスの開催などが挙げられます。



# -事業報告-

## 全国農業会議所が外国人材受入制度に関する説明・相談会を実施 インド、インドネシア、フィリピンで開催

全国農業会議所は、農林水産省の補助事業「外国人材受入総合支援事業」の一環として、海外3ヶ国での説明会を実施。本事業は、外国での特定技能の在留資格取得を支援する農業技能測定試験の受験数を促進するのが目的です。IDACAでは、本プロジェクトに関して、現地サポート業務を始めとする渡航手続き、会場・通訳手配、現地の協力機関との調整等を行いました。

開催国/地域	日程	参加者人数 (オンライン参加者含む)
インド (ニューデリ、グワハティ)	2023年10月26日~27日	259名
インドネシア (ジャカルタ)	2024年1月20日	200名
フィリピン (マニラ)	2024年3月22日	250名

プロジェクト初の説明会はインドで開催されました。説明会に参加した各国現地の日本語学校の生徒や大学生、政府関係者等は、農業技能測定試験や働く条件、日本での仕事内容について熱心に質問しました。また、外国人材を受け入れるために日本から参加した農業経営者や農家からは、インド人の考え方や文化に触れる貴重な機会を得たとの意見がありました。

また、インドネシアではインドネシア農業工学ポリテックにて、技能実習生制度説明会・リクルート相談会を開催され、農林水産省からは勝野美江審議官が参加し、開会の挨拶が勝野審議官からありました。そして、フィリピンでは Sheraton Manila Bayにて説明会が開催され、現地の送出機関で日本語を勉強している生徒が多く参加。参加した日本農家からは、フィリピン人学生等から直接意見が聞けて良かったとの声が上がりました。

IDACAでは本事業を今年度もサポートし、令和6年度については5ヶ国で説明会が開催される予定です。



グループに分かれての相談会  
(フィリピン)



全体説明会の様子 (インド)

# -事業報告-

## 韓国農協中央会と国際協力について意見交換

3月14日、韓国農協中央会 経済研究所 リ・ウック グローバル局長をはじめ、韓国農協中央会日本事務所長ら4名がIDACAに来館。局長等は、JA全中主催の「協力のためのアジア農業者グループ（AFGC）」の年次会合にあわせて来日していました。

韓国農協中央会は、各国の農協間協力を進めることを念頭に、始めの一步として研修事業を検討しており、IDACAからは運営や研修事業に係る経験について情報を提供。そして、お互いの連携・協力の可能性について意見交換を行いました。

IDACAでは2000年代に韓国農協中央会主催の韓国農協役職員研修を受け入れており、IDACAの各国研修受け入れ人数では、韓国はタイに次ぎ2番目に多い国となっています（受入実績約600名）。2000年代以降は、時代の変化とともに、IDACA研修の対象は東南アジアやアフリカに代わっていき、韓国農協中央会との接点も少なくなりましたが、韓国農協中央会日本事務所が再び設立されたことを機に、今後様々な部分での協力が期待されます。



**IDACA 小林寛史常務理事と  
韓国農協中央会経済研究所  
リ・ウック グローバル局長**



**韓国農協中央会のみなさんと  
IDACA職員**

# -研修報告-

## 2023年度 JICAエチオピア国別研修 「農産加工団地エリアにおけるバリューチェーン構築研修」



米心石川の工場にて

本研修はエチオピア現地で進行中のプロジェクトを基に企画された訪日研修で、今年で2回目の開催となります。同国の中央および地方の行政官6名を迎え、昨年に続き、東京都と石川県で実施しました。

同国が農業の商業化を目指す中、小規模農家を農家生産と農業商業化グループに組織化し、栽培技術の向上、適地適作のための指導を行いました。

また、産地形成を推進、農産物の安定供給と農家の収入増加を狙いとしており、今回の研修は「稲作」に焦点を当てた内容となりました。

県庁をはじめとした県の機関、JAグループの各組織（県中央会、全農いしかわ、JA小松市、JA金沢市、JAアグリはくい）、そして灌漑に関わる組織的な取り組みとしての土地改良区、加工、販売に関わる組織の協力を得て、研修員は基盤整備、栽培技術、組織的な営農支援、販売に至る米のバリューチェーンについて学びました。

研修の最後に、研修員はアクションプランの作成に取り組みました。作成にあたっては、その実現性を高めるために、エチオピア現地の専門家とオンラインで内容を確認したり、意見交換をすることで、アクションプランの完成度の向上に努めました。

研修員は、「集落営農」、そして「生産・販売における農協の役割」について、強い関心を示すとともに、バリューチェーンに関わる人や組織、資源についての考察を今後さらに深めていきたいとの意欲を示して、帰国の途に就きました。



高峰ファームによる集落営農  
事例の説明（公民館にて）



研修評価会にて

# -研修報告-

2023年度

ICA 農民組織の育成推進を通じた課題対応能力強化研修



## JA富里市 人参農家（皆川さん）

訪日研修は1月21日から2月3日まで（14日間）、町田市を拠点とし、現地研修では千葉県を訪問しました。JAちばみどりでは「農協の営農指導、生産部会、経済事業の取組み」について、JA富里市では「販売事業戦略～付加価値を生む農産物流通販売の取組み」を学びました。また、農家との交流があり、有機農法、農福連携、梱包、選果、スマート農業も学び、新たな知見が得られました。

日本の滞在期間中、日本食や日本人とのふれあいもあり、楽しみながら研修を受けており、なにより、日本の農業について学ぶことが多く、自国に帰国後は、是非実践したいと研修員からのコメントがありました。

## ・研修員・Ms.ブレンダからのメッセージ

IDACA、ICA-AP、農林水産省、そしてWFOの農業開発と協同組合の地位向上を促進するための取組みには、本当に頭が下がる思いです。研修員全員が、本研修に参加できたことに感謝します。

また講義や現地視察は非常に有益で、私たちのさまざまな組織に関連するものでした。協同組合の開発、持続可能な開発の実践、6次産業化の概念である3x2x1（付加価値向上による農民の収入増加）、農業者の実行可能なビジネス（アグリビジネス）への転換など、多くのことを学びました。

私たちは、仕事と私生活に深く刻まれるほどの友情を築き、新たな知識や技術、そして豊かな日本文化の思い出を身につけて帰国しました。

本研修を大成功に導いてくださった関係者の皆様に深く感謝いたします。持続可能な農業の実践と地域社会が、これからも世界中で発展・育成されますように。



ケニア全国農民連盟 最高責任者（CEO）付  
テクニカル・アシスタント  
ブレンダ・ジェプチルチル・サコン

# -研修報告-

## 2023年度 ICA 農民組織の育成推進を通じた持続可能な農業推進と農家の所得向上研修



JAふじ伊豆わさび園にて

持続可能な農業に対応するための農民組織力強化を目的としたICA農民組織化研修を2024年3月16日から29日で実施しました。本研修はICA研修の中でも農業協同組合や農民組織の強化を主目的とする伝統ある研修です。ブータン、カンボジア、フィジー、インドネシア、フィリピン、タイから7名の研修員がオンディマンド動画を用いた事前研修、バンコクでの第三国研修実施を経て、来日しました。

JAふじ伊豆では、営農販売事業、イチゴとわさびの生産圃場、JA町田市では金融事業についての組織展開を視察。JA青年部やJAグループ神奈川の実例にも触れ、組織強化、組合員活動の活性化のためのコミュニケーション手法や広報活動の重要性を学びました。さらに持続可能農業の方策として、静岡県と長野県の6次産業化の取組み、しあわせ野菜畑では有機農法、飯野農園では300年続く世界農業遺産認定の落葉堆肥の土壌改良を施す圃場を視察しました。また移動日には、茶の都ミュージアムで本格的な茶道を体験したり、美しい富士山も見ることができました。

今回は事務局のICA-APアショク・クマール・タネジャ氏を中心に、円滑な研修実施ができ研修員皆で助け合い親睦を深めることができました。また、研修員からは「実際に訪日し、各視察先で見分を広めることができ、多くの収穫を得た」との感想がありました。研修員等は、これらの知見をもとに、組織強化につながるアクションプランを作成発表。自国での実施を約束し合い無事帰国しました。

### ・外部講師・飯野氏からのメッセージ

研修員の皆さま、川越にお越しいただきありがとうございました。日本の農業と文化風習を少しでも共有できたなら幸いです。今回は青年部のリーダーシップ講義の際、グループディスカッションを通じて皆さまとたくさん語り合うことができ、私も勉強になり刺激を受けました。母国での農業振興と皆さまのご活躍お祈り申し上げます。



飯野農園にて  
外部講師 飯野芳彦氏（飯野農園）  
（左から4人目）

## IDACA事務所 周辺の紹介

IDACA事務所が高尾から町田駅周辺に移転してもうすぐ2年となります。そこで今回は町田駅周辺の様子をご案内します。

商業施設や飲食店が集まる南口エリアから、地元アーティストの作品が楽しめる美術館がある北口エリアまで、多彩な楽しみを提供しています。

自然を満喫したいなら、町田駅から徒歩約13分のところにある芹ヶ谷公園がお勧めです。公園内には春には満開となるソメイヨシノや、走り回って遊べる多目的広場や芝生広場、水辺の遊び場があり、子供から大人まで楽しめます。また公園の一角には、世界でも珍しい版画を中心とした美術館「町田市国際版画美術館」があり、心身ともにリフレッシュさせてくれます。

5月11日～12日には「フェスタまちだ」が開催され、沖縄県と鹿児島県奄美群島でお盆の時期などに盛んに踊られる伝統芸能「エイサー」の団体演舞が披露されました。太鼓や手踊り・旗などを使ったダイナミックな踊りは大盛況でした。



これらのスポットは、町田駅周辺の文化や自然を満喫できる魅力的な場所です。町田を訪れた際は、ぜひ充実したひとときをお過ごしください。



芹ヶ谷公園の様子



町田市森野のIDACA事務所